



Community resilience of women in rural areas of Lempira in the Republic of Honduras

宮本、純子

(Degree)

博士（保健学）

(Date of Degree)

2024-03-25

(Date of Publication)

2025-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第8916号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100490141>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



(様式3)

論文内容の要旨

専攻領域 パブリックヘルス

専攻分野 国際保健学

氏名 宮本 純子

論文題目

Community resilience of women in rural areas of Lempira
in the Republic of Honduras

(ホンジュラス共和国レンピラ農村地域における女性のコミュニティ
レジリエンス)

論文内容の要旨

はじめに：気象関連災害の頻度は、主に洪水や暴風雨の継続的な増加によって増加しており、1995年から2015年の間に洪水だけで気象関連災害全体の47%を占め、世界で23億人（国連災害リスク軽減事務所[UNDRR]、2015年）が影響を受けている。災害は大きな被害をもたらし、人々の健康や社会生活に影響を与えていている。自然災害は、健康と“人間の安全保障”に対する実質的な脅威である。

コミュニティレジリエンスは、災害後のコミュニティの復興に不可欠であり、コミュニティレジリエンスを高めることは、常日頃からの備えにもつながる（Norris et al., 2008）。コミュニティレジリエンスは近年、公衆衛生上の緊急事態への備えと対応に対する斬新なアプローチとして注目され、国の政策に不可欠な要素となっている（Plough et al., 2013）。本研究の目的は、コミュニティレジリエンスの状態に影響を与える要因とソーシャルキャピタルとの関係を明らかにすることである。

方法：2020年に2つのハリケーンとパンデミックに見舞われたホンジュラス共和国の18歳以上の女性を対象に、2021年8月から11月にかけて調査を行い、データを収集した。本研究ではクラスターサンプリングを用い、自宅を訪問しながら対面インタビューを行った。コミュニティレジリエンス評価尺度（Conjoint Community Resiliency Assessment Measure: CCRAM）を用いて、コミュニティレジリエンススコアを調査し、ソーシャルキャピタル、基本属性、

災害への備え、2020年の2つのハリケーンによる被害の有無などとの関連を調べた。統計分析には重回帰分析を用いた(Jamovi version 2.3.0)。

結果：ホンジュラス西部の主婦のコミュニティレジリエンスでは、結束型ソーシャルキャピタルはコミュニティレジリエンスを低下させる要因であり、橋渡し型ソーシャルキャピタルと政治的信頼（連結型ソーシャル・キャピタル）はコミュニティレジリエンスを上昇させる要因であった。橋渡し型ソーシャルキャピタルの強化は、外部からの支援として有効に働く可能性がある。また、小学校卒業程度の学歴を有する者の方が、そうでない者よりもコミュニティレジリエンスが高かったが、小学校卒業程度以上の学歴を有する者と差はなかった。小学校教育が他者とのつながりや社会的スキルを育むことを通して、コミュニティのレジリエンスにプラスに寄与することが明らかになった。

結論：本研究の結果は、地域や国の公共政策がコミュニティレジリエンスに貢献できることを示唆している。第一に、橋渡しネットワークや政治的信頼（連結型ソーシャル・キャピタル）の獲得がレジリエンスを高めるという知見から、行政・住民・外部機関が定期的にコミュニケーションを行い、橋渡しネットワークや連結型ネットワークを構築できる環境を整えることが、コミュニティのレジリエンス向上につながると考えられる。第二に、初等教育修了の有無が大きな影響を与えるため、初等教育修了を可能にする政策を強化すべきである。本研究は、コミュニティレジリエンスとソーシャルキャピタルとの関係について新たな知見を与えるものである。

指導教員氏名：中澤 港

(別紙1)

論文審査の結果の要旨

氏名	宮本 純子		
論文題目	Community resilience of women in rural areas of Lempira in the Republic of Honduras (ホンジュラス共和国レンピラ農村地域における女性のコミュニティ・レジリエンス) (外国語の場合は、その和訳を併記すること。)		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	教授	中澤 港
	副査	教授	松井 三明
	副査		印
	副査		印
要旨			
本研究は、ホンジュラス共和国レンピラ県レパエラ市の10保健センターから1つをランダムに選んで、その管轄地域にある全世帯を戸別訪問するというクラスターサンプリングによって同意を得た130人の女性を対象として行われた。平日昼に村には男性がほとんどいなかつたため、対象を女性に絞ったという制限はあるが、概ね均質な農村部であるため、レンピラの成人女性を代表する標本になっていると考えられる。質問紙は、SOCOT/SCATでソーシャル・キャピタルを、CCRAM-10によってコミュニティ・レジリエンスを評価した他、年齢、性別、教育水準、婚姻状態、宗教、雇用、居住年数、災害被災経験、災害準備性についての質問を含んでいた。2つのスケールとそれぞれのサブスケールのクロンバックの α 係数は0.7以上であったことも確認されていた。調査時の前年に自然災害を経験した25人（対象者の18%）のうちほとんどが地すべりだったという点でサンプルに偏りがある可能性はあるが、重回帰分析の結果、橋渡し型ソーシャル・キャピタル、政治的信頼、居住年数はコミュニティ・レジリエンス合計点と正の関連をもっていたが、結束型ソーシャル・キャピタルは負の関連をもっていたことや、コミュニティ・レジリエンスの下位尺度ごとに関連している要因が異なることが明らかになった。国際保健活動を進める上で重要なコミュニティ・レジリエンスについての大きな貢献である。			
よって、学位申請者の宮本純子は、博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。			
掲載論文名・著者名・掲載（予定）誌名・巻（号），頁，発行（予定）年を記入してください。 Miyamoto J, Nakazawa M (2024) Community resilience of women in rural areas of Lempira in the Republic of Honduras. <i>Población Y Salud En Mesoamérica</i> , 21(2). DOI:10.15517/psm.v21i2.54965			